

## 69. 「保育の中心とは」

2016.9.1 遠藤清賢

保育の中心とは、人間はお互いに愛し、愛されるという精神を持って生きる心を持った子どもたちを育てるということです。そのために子ども達の命を大切に、その成長を支えることが保育の中心となっています。これは変わってはいけないことです。人間の社会がどのように変化したとしても、社会制度がどのように変わったとしても、この中心は変化してはいけないものとして捉えています。人としての我々の命、生きることの使命は、子どもの命を支え、守ることです。人間としてのいかにあるべきなのかを考え、お互いに愛し合って生きるということを継承し続けることが私たちに命が与えられ生かされている理由なのだと考えます。私たちが引き継いだ命をこの子達に手渡すために私たちは今を生かされているのです。この保育の中心は人間の欲望や政治、時代によって変化する社会制度によって変わってはいけないことです。この尊い保育の働きを人間の都合によって、変えてしまった時、命の流れは断ち切られてしまうのだと思います。

しかし、現代社会はこの中心を変えようとしているように感じてしまうのです。母親が生まれたばかりの子どもを保育園に預けて働かなければならない社会は、本当に豊かな社会なのでしょうか。日本では自国の利益や経済成長を重視してしまう社会になり、0歳児の母親の約40%は保育施設に子どもを預けて働いています。保育園の存在はますます重要になっています。

保育施設で行われている保育の業が高度な専門職と言われていますが、保育は確かに簡単な働きではありませんが、高度な専門職であってはならないのです。保育自体は母親であれば誰であっても自然と出来る働きでなければならないのです。そのために正しい保育を広く社会の中に浸透させる必要があるのです。保育は閉鎖された密室で行われる働きではなく、いつでも、誰であっても、その働きを見ることができ、参加できる働きでなければならないのです。保育は人間であれば誰であってもその働きができる、協力することができるような社会になることが必要なのです。子どもを育てること、保育を国語や算数と同じように義務教育と同じように、ひろく子ども達にも伝えなければ、私たちの命の連携と継続は途絶えてしまうと思います。

私たちは保育の中心はどうあるべきなのかを、今一度しっかりと確認しなければならないのです。



### きのこサラダ《材料と分量》

#### 4人分

えのきたけ 1/2 袋、ぶなしめじ 1 パック、ブロッコリー 2〜3 房、きゅうり 1/2 本、オリーブ油 大さじ 1、醤油 小さじ 1、酢 小さじ 1、砂糖 小さじ 1

### きのこサラダ《作り方》

- 1、えのきは食べやすい長さに切り、しめじは房をほぐす。ブロッコリーも食べやすい大きさに切り、一緒に茹でる。
- 2、きゅうりは縦半分に切って斜め薄切りにし、軽く塩もみする。
- 3、オリーブ油、醤油、酢、砂糖、をよく混ぜ合わせ、ドレッシングを作る。
- 4、水気をきった野菜をドレッシングで和え、出来上がり。



奥州市江刺区男石 1 丁目 3-5 社会福祉法人 江刺保育園 子育て支援事業

電話 0197-35-1522 ファックス 0197-35-1741

子育て広場「友遊広場」専用電話 090-7327-9686

Eメール [esahoiku@pup.waiwai-net.ne.jp](mailto:esahoiku@pup.waiwai-net.ne.jp)

ホームページ

<http://www.esashihoikuen.com/>